

4月9日、JR東海労名古屋地本は会社と平成27年度事業運営について経営協議会を開催し協議を行いました。

会社は組合の問題提起に対して 真摯に受け止め改善すること！

JR東海労の具体的主張

- ・中央線南木曽～十二兼間における徐行運転について
- ・駅での安全確保と旅客の駆け込み乗車に対する対策
- ・武豊線電化による労働強化について
- ・CMC会社の問題解決について

会社の平成27年度事業運営の基本方針

1. 安全・安定輸送確保に向けた着実な取り組み
2. 質の高い親和感のあるお客様サービスの追求
3. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み
4. 鉄道のプロとしての意識の醸成と明るく活力のある職場づくりの推進

山田委員長の主張

1. この間の安全対策にいまだに改善されていない部分がある、労働組合の問題提起に対して真摯に意見を聞き、すぐに改善していく姿勢が大切である。
2. 昨年、中央線中央線南木曽～十二兼間での土石流による事故では人命に関わるような事象はなく、関係社員の懸命な努力により早期の復旧がなされたが、今だ現場では徐行運転がされています。運転士の判断のみで運転されていることであり、安全性を高めるためにも機械的な整備で安全確保をすること。
3. 車掌は列車の発車時には旅客の駆け込み、車両への接近等により大きな負担が掛かっている。人間の注意力にだけに頼るのではなく、それを補完する安全柵の設置を早急に実施すること。
4. 3月ダイヤ改正で武豊線が電化されたことにより武豊発岐阜行き直通列車などが運転され利便性は高まっていますが、それに伴い車掌の乗務行路が6時間近い連続乗務の行路が発生している。労働条件の悪化で事故のリスクが高まっている。高山線、太

多線での75形列車のワンマン機器の故障は準備不足によるものである。早急に対策と改善を求める。

5. 昨年、CMC会社との団体交渉を開催したがJR東海会社の設備であり解決出来ないとの回答であった。その後JR東海会社に申し入れをするとCMC会社の事と逃げている。CMCの職場改善要求にも責任を持って努力すること。

具体的な議論

組合：名古屋駅5番線ホームでの出区点検のやり方を変えたのはなぜか。

会社：総合的に判断してやり方を変えた。

組合：中央線中央線南木曾～十二兼間の徐行運転は運転士の注意力のみで行っている。いつまで続けるのか。

会社：現在は瞬間徐行の運転を続ける様に指導している。

組合：ホームドア、もしくは安全柵の設置はどの様に考えているのか。

会社：やりたと思っている。強度、スペースの問題、特急列車と通勤列車との車両長の違いなどがあり、もう少し勉強し将来的には導入したい。

組合：基本方針の中で言われている親和感とは何か。

会社：目指すところは、お客様の喜びが自分自身の喜びとなる様に社員が日常、仕事の中でお客様の為に何が出来るのか考え実行し、その事により自分に満足を得られることである。

組合：会社は人と投資を減らし効率的な経営による収益の向上を目指しているが、現場で働く社員への締め付けと我慢を強要しているだけである。もっと社員が喜びを持てる施策を実施すべきである

以上

平成27年度 事業運営の基本方針

『すべては安全のもとに』

～安全・安定的で親和感のある輸送サービスの提供～

- ・ 在来線は、人々の日常に欠くことができない社会的公器であり、鉄道事業の原点である安全の確保のためには、社員一人ひとりがルールや基本動作の意義を理解したうえで、任務を着実に遂行することが不可欠である。
- ・ あわせて、お客様に、鉄道を安心して快適にご利用いただける環境を継続的に提供することが重要であり、質の高い親和感のある輸送サービスを追求していく姿勢が求められる。
- ・ 以上の認識のもと、社員一人ひとりが鉄道のプロとして自らの役割を自覚し、誇りと責任感を持って生き生きと仕事を遂行することで、「安全・安定的で親和感のある輸送サービス」を実現するとともに、「働きがいのある明るい職場づくり」を目指す。

1. 安全・安定輸送確保に向けた着実な取り組み

- (1) ルール・基本動作の意義を理解した上での任務の安全・着実な遂行
- (2) 社員一人ひとりの「技術」「技能」向上への不断の取り組み
- (3) 自然災害、異常時への対応の強化
- (4) 地上設備の維持更新・改良等による安全性向上対策の着実な推進
- (5) 車両の取替と適正な検査修繕による安全・安定性向上対策の着実な推進
- (6) リニア着工に伴う名古屋駅関連工事の着実な推進
- (7) 名松線の営業運転再開に向けた取り組み

2. 質の高い親和感のあるお客様サービスの追求

- (1) お客様満足の向上を目指した各種取り組みの推進
- (2) 積極的な営業諸施策の展開
- (3) 各線区に応じた適切な輸送体系の検討・構築
- (4) 駅・車内における快適・安心なご利用環境の整備

3. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み

- (1) あらゆる業務遂行における合理性・効率性の徹底的な追求
- (2) 業務全般にわたる経費支出および設備投資の低コスト化の徹底

4. 鉄道のプロとしての意識の醸成と明るく活力のある職場づくりの推進

- (1) 規律ある行動の徹底
- (2) 自らの役割を自覚し、主体的に行動する意識の醸成
- (3) 安定的、協調的かつ建設的な労使関係の充実